

学校運営協議会 会議実施報告書

このことについて、「岐阜県立学校における学校運営協議会の設置等に関する規則」第8条第1項に基づき、次のとおり学校運営協議会を開催しましたので、その概要について報告します。

1 会議名 岐阜県立加茂農林高等学校 学校運営協議会 (第3回)

2 開催日時 令和7年1月31日(金) 13:30~15:30

3 開催場所 加茂農林高等学校 会議室

4 参加者

会長	大橋 薫子	岐阜県農業大学校長
副会長	長尾 久	岐阜県指導農業士
委員	日比野安平	地域住民
	渡辺 祥二	農業法人代表
	酒向 光世	医療法人管理職
	武田 由美	美濃加茂市教育委員
	井戸 肇	同窓会長(欠席)
	浅野 恵美	PTA役員

学校側	金本 淳	校長
	佐藤 知子	事務部長
	斉藤 寧子	教頭
	楳田 一博	教務主任
	村井 陽一	生徒指導主事
	森本 達雄	進路指導主事
	佐藤 一喜	農場長

5 会議の概要(協議事項)

- ・学校長挨拶
- ・校内見学(授業参観)

(1) 各分掌の反省と次年度の取組について

- ・学校運営について
- ・教務部について
- ・生徒指導部について
- ・進路指導部について
- ・農場部について

(2) 高等学校に期待される社会的役割等(スクールミッション)の策定について

- ・スクールミッション(案)が承認される。

意見1: 農業大学校に進学した卒業生は、希望した進路先が決定し、岐阜県の農業を支える人材に育っている。また、研究面でも各種発表を行い素晴らしい成果を残している。高校時代からの学びが生かされていると感じている。

意見2: 指導農業士として研修やインターンシップに関わっているが、農業を学んだ生徒たち

が地域の担い手として育ってほしいと思っている。異常気象など農業の抱える問題は多い。IT化も必要だが、人とのコミュニケーションである心の部分も大切にし、明るい未来の可能性を信じて学んでほしい。

意見3：授業見学の際、普通科目で統計学や感染症、戦争について学ぶ姿を見た。ある授業においては独自の統計資料を作成し進められていた。農業高校の学びは、統計学や感染症、自国の自給率など、普通教科と関連して学ぶことで更に教育効果が上がる。教師の力量が試されるが、生徒たちに考えさせる授業を提供し続けてほしい。

意見4：生徒の頑張る姿が新聞でたくさん紹介されている。働き方改革の推進で、時間をかけて取り組みたくても、残業できずできないストレスを抱える先生もいるのではないかと。生徒たちと関わりたいという気持ちを否定しないよう、モチベーションを下げず、生徒たちのマイナスにならないようにしてほしい。農業に触れる時間は地域に助けを求めてもいいのではないかと。

意見5：外国籍や外国にルーツのある子供たちは将来のプランができない子たちもいるが、入学後、将来の可能性を感じることができる高校である。農業の学びを通じて応用力が身についている。先生方が進路希望に尽力してくださっている。

意見6：家庭菜園のワークショップなど地域と触れ合う機会を増やしたらどうか。ヘルメットの着用率についての報告があったが、今は自転車側も過失を問われる時代となった。その後の人生も変わってしまうような交通事故もあるため、日ごろから今日を大切に生き、命の大切さを学んでほしい。

意見7：生徒たちが楽しそうに授業に参加する姿を拝見しうれしく思った。欠席数の増加について報告があったが、「休むことは悪くないこと」という考えが主流となり、日本全体の問題になっていると思う。社会に出たら欠席はよくないことに変わる。学校や保護者はどう対応していくべきか難しい問題である。

6 会議のまとめ

- ・委員が本校で学ぶ生徒の姿を見ることができ、本校の教育活動について助言を得る機会とすることができた。
- ・本校の取組について、委員から多くの前向きな意見が得られた。委員からの助言や提言を受け、生徒が安心安全に生活できる学校運営のあり方を模索し、改善する。
- ・教員の働き方改革にも目をむけつつ、質の高い学びと生徒の主体的に学ぶ機会を維持できるよう、学習環境を更に整えていく。
- ・今年度策定した「スクールミッション」を広く提示し、わかりやすく本校の学びを広報し、農業高校としての学びの特徴を生かした教育を推進する。